

# 鞍手高校新聞

百年の星霜を重ねし

この鞍陵に

集う我らは

鞍高健児

軒昂の

意氣 誇らかに

たくましく

文武の道を

修めなん

百年の

歴史の礎

踏みしめて

いざ

ゆるぎなき

歴史を築かん

我らは誓う

今 創世の時

新しき世紀を創る

鞍高百年

新しき世紀を創る

鞍高百年

百周年記念式典生徒口上より

校長 清澤亨

「新しき世紀を創る 鞍高百年」  
をスローガンに掲げ、本年度創立百周年の諸事業を進めてきました。これらの記念行事に臨む、真剣且つひたむきな生徒の皆さん姿を校長として頼もしく思います。

この「鞍手高校新聞」に各行事の詳細が記載されていますが、各行事を通して、私は今の鞍高生の「底力」を感じました。吹奏楽部記念演奏会での地域と一体となつた感動のフィナーレ、記念大運動会百周年プログラムでみせた一糸乱れぬ団結力も見事でした。今年は部活動でも、女子バスケットボール地区大会での終了

一秒前の逆転シュート、剣道玉竜旗校を破つての四回戦進出、野球部甲子園予選では、劇的な九回裏サヨナラホームランによるシード校撃破など、鞍高名物龜踊りにも歌われた「いざという時芯がある」鞍高生の心意気を大いに示してくれました。

また、記念鞍高祭の折には、毎年本校の学校行事に参加されている地域の方から「鞍高生は本当に生き生きとしていますね」という感想をいただき、たいへん嬉しく思いました。それは、県の最優秀賞を受章したS.H.課題研究発表や、SGH筑豊會議での、堂々としたプレゼンテーションの姿にも表れています。

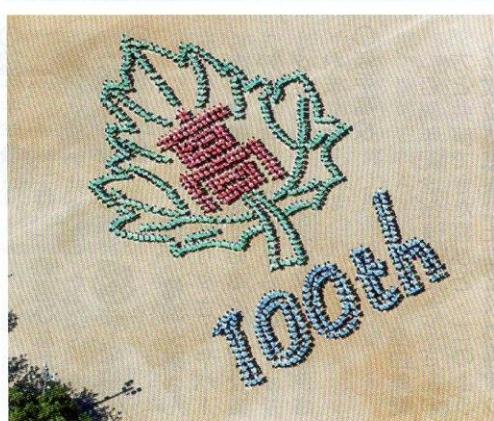
鞍陵会会长 永富政英

本校、玄関前に創立九十周年を記念して作られた「質実剛健」「自学自習」の校訓と「たくましき前進者たれ」の校はあります。私が鞍陵会の幹事長としてお世話をしていた時に、創立九十周年の記念事業として作られた碑です。十年という年月が流れる中で、鞍高生の励みとなつて社会へ羽ばたく姿を見守り、見送ってきたと感概深いものがあります。しかし、その十年のさらに十倍の歳月をこの鞍手中

学・鞍手高校は歩んで来ました。その間、二万七千名を超える生徒が立ち、多くの出来事が今も語り継がれています。それについては、百年を記念して作られる校史「鞍陵百年」に編纂されています。様々なエピソードは、鞍手の生徒が幾多の困難を乗り越えていた鞍高魂の歴史でもあり、卒業生・在校生に共有される鞍中・鞍高生の誇りと考えます。生徒の皆さんも、是非一読し、未来に向かつてたくましく前進するための「希望の書」となることを願つてやみません。

PTA会長 赤間功

昭和五十二年に、本校は創立六十周年を迎えた。その当時第三学年に在籍していた私は、最上級生で創立六十周年記念式典を体験しました。その時から四十年の月日が流れています。その当時は、一クラス四十五名の八クラス、一年生の人数は三六〇名が定員で、学校全体の生徒数が約一〇八〇名という状態でした。現在の生徒数が七一七名であるとのこと



「鞍高生は行事を通して成長する」と言われます。我が鞍高高校もこの百周年事業を通して更にたくましく前進し、これからの新しき世紀を創つていく学校となることを願っています。



## 一日目 文化祭

一日目、鞍高祭校門を入ると、昨年ヒットした、ドラマ「逃げ恥」の恋ダンスが描かれた縦四尺と横六尺のモザイクアートが出迎え、お祭りムードを盛り上げる。

茶華道部は、地元の市民団体である「古高取を伝える会」の協力を得て、古高取の展示・説明・陶芸教室を行うブースを設けた他、藤棚下での野点を行い、多くの来場者に高取焼の茶碗で抹茶をふるまつた。茶華道部部長の大塚千尋さんは、「改めて高取焼について学び、その素晴らしさを再認識した」と語った。また、生け花の教室展示も行つた。家庭科部は恒例となつた手作りのクリスマスやケーキの販売に加え、学校家庭クラブ企画として、アトリエ・プランシユの野崎由美子先生（高三十回卒）の指導で作製したプラタナストレーーやカッピを販売するなど「地元の文化を知り、体験できるもの」を工夫した取組となつていた。



グラウンドでは、吹奏楽部のマーチングの華麗なパフォーマンスと演奏が繰り広げられた後に、SSH部が打ち上げるペットボトルロケットの「バン」という音が響き渡つていて。体育馆のステージでも、吹奏楽部の演奏、

### 七年ぶりの県大会出場

本年度は、本校が百周年を迎えたという勢いもあり、様々な部活動が好成績を上げた。そこで、上級大会出場の部活を紹介したい。

### 躍進 鞍高部活動

皆さんに協力をいたいたいたKuratte Hearty Campaign「熊本・大分地震被災者の方々への義援金」を六月十四日、全校生徒を代表して生徒会が日本赤十字社直方地区長である王生隆明直方市長に手渡した。義援金の内訳は、鞍高祭募金四五、九七四円、茶華道部二五、〇

### 熊本・大分地震の被災者へ 鞍手高校生徒会が直方市長に義援金託す

先日行われた鞍高祭で、多くの皆さんが協力をいたいたいたKuratte Hearty Campaign「熊本・大分地震被災者の方々への義援金」を六月十四日、全校生徒を代表して生徒会が日本赤十字社直方地区長である王生隆明直方市長に手渡した。義援金の内訳は、鞍高祭募金四五、九七四円、茶華道部二五、〇

書道部のパフォーマンスや合唱部の合唱が披露された。その他、書道部や美術部の書や絵画の展示、芸能部が部誌の全国大会等出展作品の放映、ESS部の英語と触れ合う企画、SSH部の科学実験の演示など、工夫を凝らした取組で見る者を楽しませてくれた。

本校では、全校生徒を三つの分団に分け、様々な学校行事で互いに競つている。この鞍高祭でも、合唱コンクールやKURAKOUシネマズ（ムービーコンテスト）に加え、分団ごとのテーマに沿つた教室展示や十万本のツマヨウジのモザイクアートでその出来栄えや完成度を競つた。

合唱の部は、課題曲「今、咲き誇る花たちよ」自由曲・青分団「友、旅立ちの時」赤分団「なんでもないや」黄分団「ヒカル」、赤分団「アダムとイブ」黄分団「スペースシャトル」、優勝は青分団であった。

文化祭委員長の三年、富永虎太朗さんは「春休みから動き始め、百周年の節目の年に自分たちしかできない文化祭を作り上げたいという気持ちで、やつてきた」と胸を張り、同じく三年、宮川純奈さんは「百周年ということでお地域の方などたくさんの方々に来ていただけるよう、何度も何度も企画を練つてきた」とこれまでの苦労を語つた。

各試合とも全校生徒の応援に応える熱戦を繰り広げ、見応えのあるものとなつた。選手は自信溢れる表情で声援に応え、百周年記念の鞍高祭を締めくくつた。

**福大大濠好投で8強**

2017年 野球部 大濠好投で8強

**データ分析選手鼓舞**

2017年 野球部 大濠好投で8強

**県立鞍手高直方市長会見**

被災者に義援金  
鞍手高校生徒会

**県立鞍手高直方市長会見**

被災者に義援金  
鞍手高校生徒会



弓道部の3年佐々木祐輔さんは、国民体育大会えひめ国体の弓道競技少年男子の部に出場した。また、その国体の選考会では、九州の選りすぐりの選手の中で、遠的、近的とも一位の成績を収めた。

### 九州第一位で国体出場

**全九州高総文祭に出場**

80人、一筆入魂

**放送部**

2017年 全九州高総文祭

**九年連続全国大会**

放送部は、NHK杯全国高校放送コンテストに、ラジオドキュメント、テレビドキュメント、総合テレビドラマの3部門で県代表として九年連続の出場を果たした。

**放送部**

2017年 全九州高総文祭



吹奏楽部は、マーチング部門で福岡県代表となり、宮城県で行われた全国高等学校総合文化祭（みやぎ総文2017）に出席した。パレードでは、本校吹奏楽部が樂天イーグルスとソフトバンクホークスの応援歌を演奏し、沿道からは大きな声援をいただいた。

## マーチングで全国高文祭

# 百周年記念大運動会



百・二百メートルリレー  
男子スウェーデンリレー  
女子スウェーデンリレー  
分団対抗リレー  
綱引き  
綱盗り  
バラエティ競争  
騎馬戦  
男子マスゲーム  
女子マスゲーム  
応援合戦

九月九日に鞍校百周年記念第七十回大運動会が開催された。今年は百周年といふこともあり例年以上の大変な盛り上がりを見せた。そのため毎年行われている通常のプログラムである

百・二百メートルリレー

男子スウェーデンリレー

女子スウェーデンリレー

分団対抗リレー

綱引き

綱盗り

バラエティ競争

騎馬戦

男子マスゲーム

女子マスゲーム

応援合戦

## 第七十回大運動会

は各分団が競い合い、一人一人が全力で競技に臨んでいた。

また今年は特別なプログラムである、百周年「たくましき前進者」が企画され、今まで競い合っていた三分団がここで一丸となり、女子は華やかさを、男子は力強さを披露した。この百周年という特別な大運動会で素晴らしい演技を魅せてくれた。

本校第二十七代 森英一 校長  
百周年記念大運動会を詠む

秋の雲

見下す校庭 (にわ) に

駆ける子ら

飛躍秘め

集合演技のたくましさ

息吹き新たに

快進撃

ラッパのマーチ

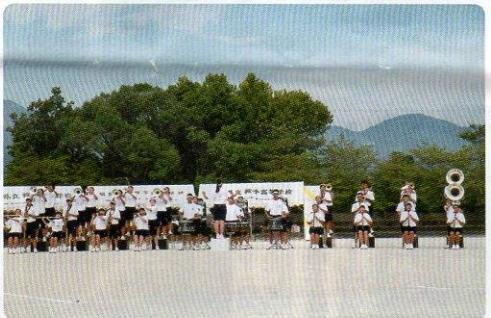
天を突き

飛躍を願う

念正の秋 (とき)



総合結果	
黄分団	<b>1088</b>
青分団	<b>1158</b>
赤分団	<b>1245</b>
<b>赤分団優勝!</b>	



青分団の応援はとても力強くパワフルで、腰に着けていた青いタオルを使い、青分団のスローガン「NEWAVE」という言葉通りに大きな青い波を見事に魅せてくれました。また、一曲目からその場に居る人々を巻き込んでしまうような爽やかさのある応援でした。

# BLUE



# YELLOW

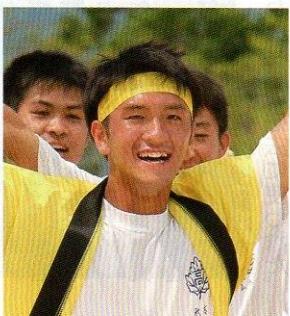


黄分団の応援では外国のスクールミュージカル調のパフォーマンスで一人一人が軍手を着用し女子はハチマキを頭の上でリボンに踊りたりました。そのため今年の応援の部では見事に黄分団が優勝しました。

# RED



赤分団の応援では祭りのような賑やかさのあるパフォーマンスで、また赤分団はうちわを使用し「happyな半被」という曲に合わせて元気よくワッショイ!と叫ぶ姿がまさに勇壮活発でした。そして、「ずっと男道」という曲では男女がペアとなり大きなハートを完成させるなど微笑ましい一面がありました。



## 各分団長へのインタビュー

### 質問内容

- リーダーとして、今回の運動会はどうでしたか？
- 来年はどのような運動会にしてほしいですか？

**赤分団長 深町 斗夢**  
○非常に忙しかったが、自分らしい分団を作り上げられたと思う。本当に最高の思い出となつた。今年の百周年大運動会を超えて、観る人を感動させられるようなものにしてほしい。

○辛いことや辞めたいと思ったこともあつたが、赤分団の皆さんそして先生方に支えてもらつて大運動会を成功で終えられたので感謝してもしきれない。

○来年の運動会というよりは、分団長には頼る事の大切さを感じてほしい。自分一人では何事も成功しないし、そのことによる無力さを感じることもあるだろうけど、支えてくれる人がいることを忘れないでほしい。

○百周年ということで注目を浴びた大運動会だつたが、真価が問われるのは百一年目の運動会だと思っている。自分たちが鞍高に残したものを受け承・発展させていくことが一、二年生の役割だと思うので、百周年を「超越」してもらいたい。

**黄分団長 秋吉 遥人**

○学校行事では一つも優勝出来なかつたが、優勝したいといふ想いは誰に負けていなかつたと思う。同じ目標に向かつて頑張る団員を見ていると疲れもなくなり、心の底から黄分団長で良かったと今でも感じる。

**青分団長 下元 悠也**

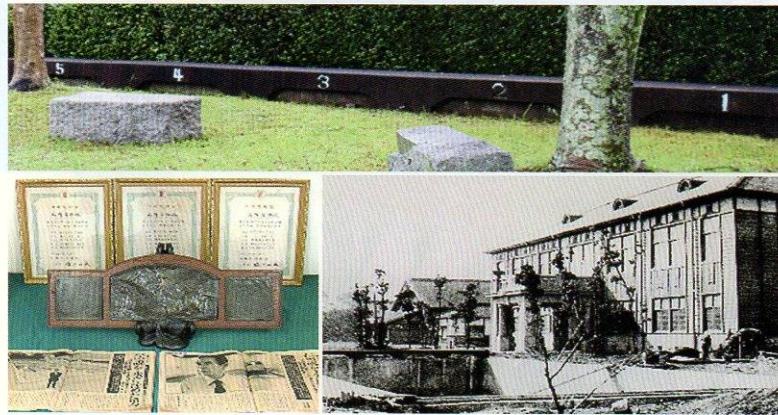
○非常に忙しかつたが、自分らしい分団を作り上げられたと思う。本当に最高の思い出となつた。今年の百周年大運動会を超えて、観る人を感動させられるようなものにしてほしい。

## 鈴懸の並木

本校第二代の石塚校長が、大正十一年に校門から現在の御館橋の前にある雲心寺までの約五〇〇mにプラタナス（鈴懸の木）の植樹を計画し、二つ間隔で苗木が植えられた。校歌にその鈴懸を歌い込んだ伊馬春部氏も、毎日のように肥料（町）で集めた馬糞や水をやつて育てたことを思い出し「当時は鈴懸の稚木を守るのがやつとどだつた」と語っている。その後、並木は大きく成長し、昭和五

十年代まで校門坂は、鈴懸の枝葉がつくるトンネルが夏の涼を誘つた。一昨年、最後まで残つていた鈴懸も幹が朽ち果て切り倒されたが、その残つた幹から再び枝を再生しているのは驚きである。今となつては、校門の両脇に残るその一本だけだが、時代を超えた絆を繋ぐ役割を果たしている。そんな鈴懸の木に先輩の姿を重ね、改めて鞍中魂が今も息づいていることに気付かされる。

戦後、「母校から名選手が出て欲



## 特集

## 鞍手高校の歴史に見る

## 「鞍高魂」とは

## 世界記録と旧プール

鞍手高校には様々な歴史が語り継がれている。創立百周年を記念して編纂された「鞍陵百年」の中にも、数多くのエピソードが掲載された。鞍手高校としてあげられる中から、現在受け継がれる「鞍高魂」

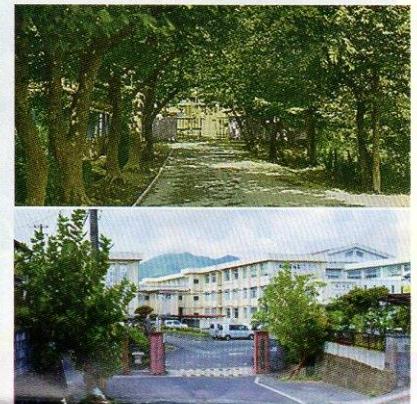
本校に寄贈している。天野氏とその活躍の陰にある先輩の姿に鞍中魂を見ることができる。

現在、本館前の流水庭園のわきに、コースナンバーを記したコンクリートの旧プール跡を見ることができる。この旧プールは、昭和二年に県内の旧制中学では三番目となるプールだ

ったが、着工後、なかなか工事が進まないため、生徒たちがプールの素掘りの勤労奉仕をかけて出て、昭和三年に完成したものだ。当時、プール堀りをした中学六回生は、自分たちで作つたプールで泳ぐことはできなかつたが、このプールで練習した

男子の記録一八分五秒八は、古橋広之進が破るまでに進学し、昭和十三年に一五〇〇m自由形で世界記録を樹立、先輩の功績に応えた。この時の記録一八分五秒八は、古橋広之進が破るまでに優勝を期待された東京オリンピックが戦争のため中止となり、金メダルの夢は断たれ、自身は戦地に赴いた。

## 校章の制定



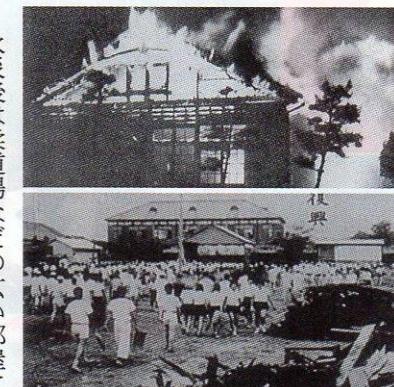
男子の制帽には鞍手中学時代から白線が三本入つている。これは、男女共学となる際、女子もこの「真・善・美」の三つを象徴している。この「真・善・美」を理想とする。この「真・善・美」の芸術を追求して欲しいとの願いがこめられている。



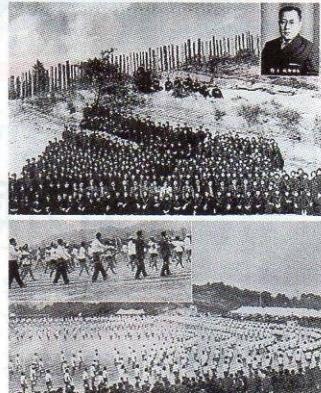
## 制帽・腕章



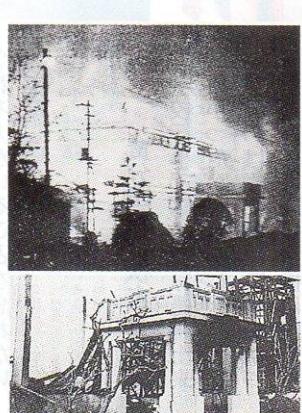
また、女子の腕章も同じく三本のラインで四葉のクローバーがデザインされている。これは、男女共学となつた際、女子もこの「真・善・美」を取り入れたものをと、高校四回の女子生徒が校章をデザインした鶴飼毅氏に談判して作られた。セーラー服の襟を縁どる三本の赤いラインと共に女子生徒の気概を示すものだ。



## 鞍高魂とは何か



一方、現在の鞍高生も先輩方に負けない。鞍高祭や大運動会など学校行事はもちろん、SSHやSGHの取組も、生徒一丸となつて新しいものを作り出そうと頑張つている。そういう意味で鞍高魂を引き継いでいると思う。ただ、これまでの先輩方が勉学に励み、高い進学実績を残しながら、様々な苦難を乗り越えてきたことを決して忘れてはいけない。まさに、「二兎を追え」の精神を貫き通さなければ、鞍高魂とはいえないだろう。



## 三度の火災

鞍手高校の歴史を語る上で、火災の悲運を忘れるわけにはいかない。

最初の火災は昭和三十二年四月二十九日二十一時半出火。中校舎の二棟十四教室を焼失。それから三週間経つ五月二十日午前〇時半出火。

北側の二棟九教室を焼失した。

度重なる原因不明の火事に見舞われ、翌日登校した生徒の多くは、焼け落ちた柱から立ち上る煙を目にしながら呆然と立ちすくみ、中には泣き出す女子生徒もいた。なす術もなくやがて運動場に集まり整列した時、当時の橋口生徒会長が壇上に上がり、生徒を見まわし「みんな、鞍高は焼けても鞍高魂は焼き尽くせない」と絶叫した。その後は、校庭におえつの波が広がつたという。

その後は、

鞍高魂は

焼け落ちた瓦礫の撤去に使われた。

カ月の間、鞍手高校と旧直方高校を

自転車で行き来しながら授業を行つたと話す。また、体育の授業はすべ

て焼け落ちた瓦礫の撤去に使われた。

その際、大量に出てくる黒焦げの柱

が山のように積み上げられた。

その当時、鞍手高校には外柵はな

く、どこからでも入れる状態で、二

度の不審火を経て防護柵が必要との声が上がつた。そこで、焼け落ちた柱を生徒が一本一本を担いで地中に打ち込んでいった。「三度の火災は許さない。みんなで学校を守ろう」と防護柵を作つた。その当時の三年生が残した卒業写真には石炭の層の崖に打ち込まれた柵を前に撮られてゐるものがある。彼らは火災後に、父代で不寝番をしたとも話す。

その当時、鞍手高校には外柵はな

く、どこからでも入れる状態で、二

度の不審火を経て防護柵が必要との声が上がつた。そこで、焼け落ちた柱を生徒が一本一本を担いで地中に打ち込んでいた。「三度の火災は許さない。みんなで学校を守ろう」と防護柵を作つた。その当時の三年生が残した卒業写真には石炭の層の崖に打ち込まれた柵を前に撮られてゐるものがある。彼らは火災後に、父代で不寝番をしたとも話す。

その当時、鞍手高校には外柵はな

く、どこからでも入れる状態で、二

度の不審火を経て防護柵が必要との声が上がつた。そこで、焼け落ちた柱を生徒が一本一本を担いで地中に打ち込んでいた。「三度の火災は許さない。みんなで学校を守ろう」と防護柵を作つた。その当時の三年生が残した卒業写真には石炭の層の崖に打ち込まれた柵を前に撮られてゐるものがある。彼らは火災後に、父代で不寝番をしたとも話す。

その当時、鞍手高校には外柵はな

く、どこからでも入れる状態で、二

度の不審火を経て防護柵が必要との声が上がつた。そこで、焼け落ちた柱を生徒が一本一本を担いで地中に打ち込んでいた。「三度の火災は許さない。みんなで学校を守ろう」と防護柵を作つた。その当時の三年生が残した卒業写真には石炭の層の崖に打ち込まれた柵を前に撮られてゐるものがある。彼らは火災後に、父代で不寝番をしたとも話す。

その当時、鞍手高校には外柵はな

く、どこからでも入れる状態で、二

度の不審火を経て防護柵が必要との声が上がつた。そこで、焼け落ちた柱を生徒が一本一本を担いで地中に打ち込んでいた。「三度の火災は許さない。みんなで学校を守ろう」と防護柵を作つた。その当時の三年生が残した卒業写真には石炭の層の崖に打ち込まれた柵を前に撮られてゐるものがある。彼らは火災後に、父代で不寝番をしたとも話す。

その当時、鞍手高校には外査はな

く、どこからでも入れる状態で、二

度の不審火を経て防護柵が必要との声が上がつた。そこで、焼け落ちた柱を生徒が一本一本を担いで地中に打ち込んでいた。「三度の火災は許さない。みんなで

鞍高生の現状と過去

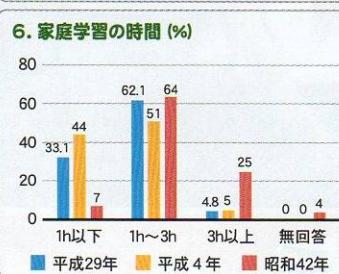
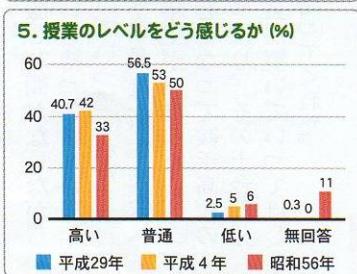
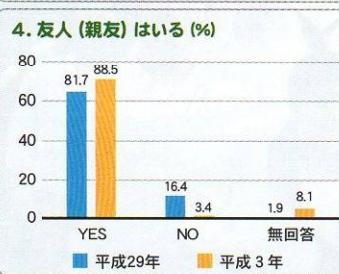
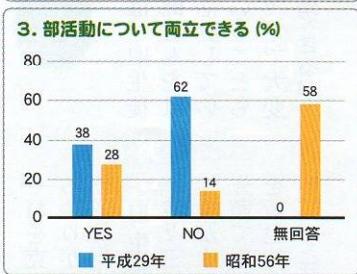
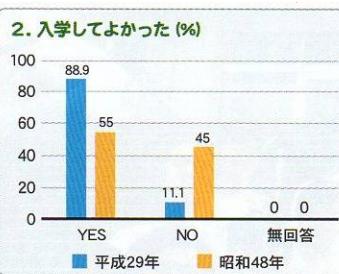
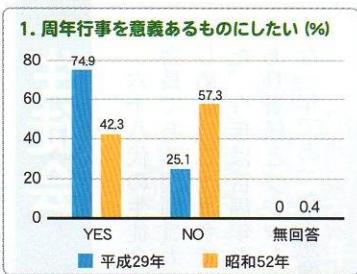
## アンケート調査

本年、文化祭の生徒会企画で、過去の鞍手高校新聞で生徒に調査された項目について、今の鞍高生にもアンケートを行い、当時の鞍高生と比較が行われた。新聞部としては、再度、このアンケート結果を分析し、私たち鞍高生としてのあるべき姿を考察したい。

1周年行事について  
本年は、創立百周年の記念行事が多く行われてきたが、その周年行事を意義あるものにしたいかという調査して学校行事の種類に関しては、そ  
う大きな違いはないが、現在行わ  
れている分団制などの取組がよい結果  
に表れているとも考える。

多く行われてきたが、その周年行事を意義あるものにしたいかという調査が、創立六十周年の際、清澤校長先生が在籍していた昭和五十二年に行われていた。六十周年と百周年の規模の差は大きいかもしれないが、明らかに現在の鞍高生は、周年行事に対して意義を感じ、良いものにしようと取り組んでいるようだ。

＊＊＊＊＊



この内容については、昭和四十八年に入学してよかつたかという調査が行われている。これについても、立しなければならぬとの思いに多くの生徒が悩んでいたと想像する。逆に、現在の鞍高生は、両立などできないと諦めてはいないだろうか。

明らかに現在の鞌高生の方が満足感を持つてゐるといえる。当時と比較して学校行事の種類に関しては、そ  
う大きな違いはないが、現在行われ  
ている分団制などの取組がよい結果  
に表れてゐるとも考える。

友人（親友）がいるかという調査については、平成三年に調査が行われており、現在の鞍高生の方がいないと答える数が多い。平成三年当時は、携帯電話やスマートフォンがまだ存在しない時代であつたが、逆に今よりは生徒どうしのつながりがあるのではないかと考えられる。今後、学校への携帯・スマホの持ち込みに関する議論が行われるが、こういった点も考慮しなければならない。

この調査については、平成四年と昭和五十六年にも調査が行われている。大きな傾向は変わらないが、だんだんとレベルが高いや普通と回答する生徒が増え、低いとする数が減少している。一概に、授業のレベルが同じではないため、比較できないが、昔に比べて教育内容全般が易しくなったといわれる中で、この結果は重く受け止めた。

## 6 家庭学習時間について

家庭学習時間については、平成四年と昭和四十二年で調査がされている。平成四年に比べると、現在の鞍高生の方が、すこし家庭学習時間が多いようだ。しかし、昭和四十二年当時は、三時間を超える生徒が二十五%以上を占め、うち六%が五時間以上であった。当時の鞍手高校新聞では、一時間程度の家庭学習しかしていない生徒が七%いるとして問題視されているが、現在の状況をどう感じるだろうか。当時は今と違つて、家庭の自家用車の送迎や電子辞書などのない時代だ。確かに勉強をするにも効率が悪い時代であつたんだろうが、高校生として勉学に費やす時間は本当にこれでいいのだろうか。あわせて、当時の新聞には他校筑紫丘高校は二時間、東筑高校は三四時間とある。

## SSH部 福岡県理数科課題研究発表会

六月十六日に嘉穂高校で行われた平成二十九年度福岡県理数科課題研究発表会において、本校理数科の研究が最優秀賞を受賞した。今回受賞した研究発表を行つたのは、三年一組の宮本颯大くん、安部健人くん、坂口優馬くん、原田聖志くん、舟山彦太くんの五名。「プラタナスの夜明け」(プラタナスを用いたコバルトイオンの回収に関する研究)という

この日、第一部としてアルビニストの野口健氏を招いて基調講演が実施された。野口氏は「富士山から日本を変える」グローバル社会を生きる君たちへ」と題して講演をされ、富士山やその広大な裾野における清掃活動を例に挙げ、「こつこつ」の上に更に「こつこつ」と積み上げていくことの大切さを訴えた。



## 筑豊會議 地域巻き込み

筑豊の未来を考える

テーマの研究発表を行つた。発表を見られた校長先生からも、「この課題研究発表は、地道にコツと取り組んできた研究はもちろん、発表態度の面でも最優秀に相応しいもの。特に都会の高校生からのい質問に対し、本校生徒のままで誠実な受け答えと研究に対すい信念も、高い評価につながつ」と感想を述べられた。

賞を受賞 研究成果を披露した。また、SSH題研究発表、カナダ留学体験報告、SGHシンガポール・マレーシア研修報告など、多岐にわたるHの取組を報告した。

続いて、行われた「高校生がする『筑豊会議』」では、直方市若宮の地方行政に携わる職員、学の関係者及び学生を招いて、「

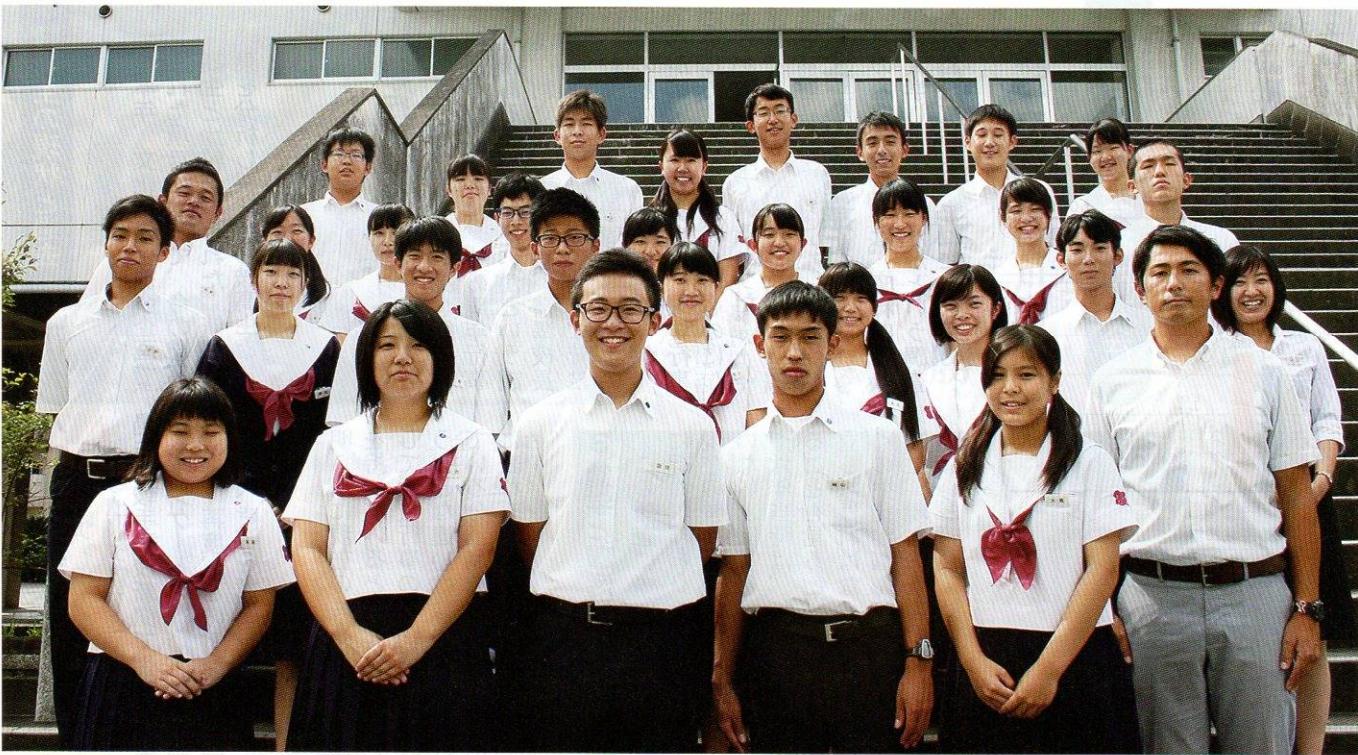
表会本校コツ

筑豊の活性化策議論

生とともにパネルディスカッションを行った。このパネルディスカッションでは、課題研究を通して直轄の地域活性化を目指した「都市部からの集客施設開発の在り方」「大都市からのレジデンシャルエリアの創設」「農業によるデイリリーーズの供給」などの提言を行い、専門の方からも意見をいただきながら議論を深めた。

来場いただいた地域の皆様からも、「高校生がここまでできることは驚いた」「もっと多くの行政の方や専門家の方の意見を交えて行うと素晴らしい会議になる」など、貴重なご意見をいただいた。この「筑豊会議」を通し、高校生であっても地方創生に主体的に取り組んでいかなければ」と、改めて認識するとともに、そのような我々の姿勢を、地域の皆様にも応援していただいているんだということに、自信を持つた。

生徒会



六十八代の生徒会は、旧生徒会長である岡師貫太郎さんをはじめ総員二十九名で活動していく。今年は百周年ということもあり責任とプレッシャーで大変な一年であつたと想像できるが、

それを克服し時間がないながらもやりがいを持つて鞍高百周年を築きあげていってくれた。

旧生徒会長は新生徒会へ「我々三年生が卒業したら、二年生が中心となつて鞍高高校の先頭で引っぱり、その土台部分を新生徒会が築いていくてほしい。」と語ってくれた。

次世代へバトンタッチ

A portrait of a young woman with dark, shoulder-length hair. She is wearing a white lab coat over a dark top. She is smiling and looking directly at the camera.

”Next One”を達成させるために一つ一つの活動を生徒会全員が全力で取り組めるようにサポートしていくたいです。また副会長として各委員長が困っていることがあれば、いち早く気づき一緒に仕事が出来ればいいなと思っています。

A portrait photograph of Nishida Ryoma, a young man with dark hair, wearing a light-colored button-down shirt. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

鞍手高校の新しき世紀の一歩を新生徒会三十四名で踏み出していく様子に、生徒会が土台となつてサポートしていくます。また自分にしか出来ないことを成し遂げていきます。

(一) 築豊の歴史は、鞍陵真中を占めて、つくし不知火。

ああ 五十年  
燐として輝く 理念  
そのまま 永久永劫に  
伝えなむ この誇り

鞍手のスピリット  
讚えなむかな心より

わが鞍手

(二) 築豊のつくし不知火

鞍馬の歴史は  
はつも 五一年

ああ 五十年

草十  
先豊行書

第一回  
鞍手のスピリ

## われらが母校

また、遠賀

さやかに

今日の祝

今日の祭り

昭和四十二年

伊馬春部

作

今回百周年記念新聞の制作に携わらせて頂いた新聞部の二年二組 石山優香と倉石広海です。制作 자체、初めてだったのです。先生方のご迷惑をかけてしまいました。しかし、無事新聞が完成した今、達成感とともに喜びに溢れています。多くの人がこの新聞を見て貰うことを願うと共に、協力してくださった方々に感謝いたします。



セピア色に変色した、創立五十周年記念新聞の表紙を飾るのは、プラタナスと50をかたどる人文字の写真。そして、それを背景として朗々と刻まれた「鞍陵五十年讃歌」である。鞍手高校の校歌を作詞した伊馬春部氏が、五十周年を記念して書き下ろしたものだが、ここにある言葉は、五十年が経過した今も色褪せることなく、「鞍高魂」を掲ぎ立ててくれる。

そこで、百周年を記念して発刊される鞍手高校新聞の最後に、この「鞍陵五十周年讃歌」を掲載することとした。その讃歌の五十年を百年に置き換え、鞍手高校の生徒としてのあるべき姿や本校や地域の未来について思い描いて欲しいと願う。